地域・駅・新幹線ニュースレター

はっしん！ 新青森

青森県立青森西高等学校 Aomori Prefectural Aomori Nishi Senior High School × 青森大学 AOMORI UNIVERSITY

2021年10月10日（日）
第26号 【FREE】

青森大学・青森西高等学校
高大連携事業
協力：JR東日本新青森駅
〔青森学術文化振興財団助成事業〕

青森市立新城中 金魚ねぶた2,800個 駅や病院に

東京駅・小机駅から感謝の言葉

新青森駅一帯を学区とする青森市立新城中学校の「おもてなしボランティア隊」は2017年から、8月の青森ねぶた祭に合わせて、新青森駅で手作りの「金魚ねぶた」配付を行ってきました。今年も新型コロナウイルス感染症のため、祭が中止となる中で、生徒たちは約2,800個の金魚ねぶたを製作、青森県立中央病院や県旅館ホテル生活衛生同業組合、県のアンテナショップ、JR東日本の東京駅と小机駅（横浜市）に贈り、感謝の言葉が寄せられました。

同校は2016年に金魚ねぷた作りを始めました。翌2017年に「総合的な学習」と組み合わせて本格的にスタート、学区内との小学校とも連携して、製作と配付に取り組んできました。昨年も金魚ねぷた1,500個を作り、医療機関や宿泊施設に送りました。

★個数を昨年の2倍に

今年は2年続けて青森ねぶた祭が中止となりましたが、生徒たちの強い希望で個数を2倍に増やし、進呈先も生徒たちが自主的に決めて、110人が製作に参加しました＝写真上。

さらに、今年度は、新青森駅から「祭りを楽しみにしていた首都圏のお客さまに金魚ねぶたを配付し、祭りの雰囲気を味わっていただく新たな取り組みをしてみませんか」と提案があり、東京駅とJR横浜線の小机駅に金魚ねぶたを贈って、駅利用者への配付や駅の装飾に活用してもらいました。

★駅にお礼のメッセージを展示

両駅からは笑顔で金魚ねぶたを手にする駅員らの写真が届き、小机駅は「私たちも、しっかりと青森の伝統をお伝えさせていただきました」というメッセージを寄せました。これらはパネルに仕上げられ、9月末まで新青森駅東口に展示されました＝写真下。

副隊長を務めた3年の工藤由凪（ゆいな）さんは「活動を通してたくさんのことを学びました。後輩たちには新城中の伝統活動として頑張ってほしい」と振り返りました。

新青森駅の工藤冨士雄駅長は「これからも新たなことに挑戦し自分たちの成長につなげていただければ」と話していました。

長万部町・新幹線駅デザイン検討委

新青森駅視察などの活動報告

今年7月下旬、北海道・長万部高校の生徒7人が、2031年春に開業を予定している北海道新幹線・長万部駅のデザインの参考にしようと、新青森駅と青森駅を視察しました。その模様などを伝えるパネル展が9月、長万部町学習文化センターで開かれました。

長万部高校生たちは「新幹線駅デザイン検討委員会」の委員として青森市を訪れ、櫛引素夫・青森大学教授の案内で、ねぶたや「こぎん刺し」をあしらった新青森駅の構内、リンゴ箱をモチーフにした青森駅の自由通路、三内丸山遺跡などを見学しました。また、それに先立ち、同町役場で、ワークショップ形式の意見集約を行いました。

パネル展は活動の途中経過報告の形で、活動の写真や、意見集約の際に制作された模造紙を展示しました。ニュースレター「はっしん！ 新青森」も掲示、配付されました。

三内丸山遺跡 AR×SNS 11月末までフォトラリー 新青森駅

北海道・北東北の縄文遺跡群の世界文化遺産登録を記念し、「三内丸山遺跡＆新青森駅　ＡＲ×ＳＮＳでつながるフォトラリー」が11月30日まで開催されています。

フォトラリーはJR東日本盛岡支社が、三内丸山遺跡センターの協力で企画しました。ＡＲ（拡張現実）の技術をＳＮＳと組み合わせて、誰もがオリジナルの写真を撮影、投稿できる仕組みです。

参加者は、三内丸山遺跡センター縄文時遊館の売店付近と、新青森駅2階の南北自由通路の2カ所に設置された、Facebook用かInstagram用の二次元コードを読み取ります。すると専用アプリが起動し、オリジナルフォトフレームが表示された写真撮影画面が現れます。その状態で好きな写真を撮影し、「# 三内丸山遺跡」または「# 新青森駅」のハッシュタグを付けて投稿します。

2個所とも撮影、投稿した参加者には、新青森駅改札口で記念品が贈られます。

北海道新幹線のペーパークラフト展

奥津軽いまべつ駅 中泊・蓬田の園児ら制作

北海道新幹線・奥津軽いまべつ駅（今別町）の駅連絡通路で、中泊町と蓬田村の子どもたちが制作したペーパークラフトの展示会が開かれています。

同駅では8月、今別町主催の「1日駅長体験イベント」が開催され、中泊町の薄市こども園と富野こども園、蓬田村の蓬田保育園の園児らが、北海道新幹線をかたどったペーパークラフトに色を塗る体験をしました。その作品を、駅の皆さんが組み立てて展示しています。

ヒントになったのは、同駅で6月に開かれた石沢透駅長らと青森大学生のワークショップの際、学生が提案した「駅を憩いの場に」という提案だったと言います。

展示は今年の年末まで行われています。担当者は「子どもたちが未来の新幹線を作ってくれました。ぜひ、見においでください」と話しています。

©2021 MOTOO KUSHIBIKI

<ご自由にお持ち帰り下さい>

ポスター等は許諾を得て使用しています

青森県立美術館 企画展開幕 「東日本大震災 10 周年 あかし」

青森県立美術館で 10 月 9 日、企画展「東日本大震災 10 周年　あかし testaments」が始まりました。4 人のアーティストの作品を取り上げ、震災の記憶や教訓をどう伝えていくかを考えるグループ展です。

木村伊兵衛写真賞などを受賞した写真家・北島敬三の作品は、震災を契機に始まった、うち捨てられたような風景をモノクロでとらえた写真のシリーズ「UNTITLED RECORDS」などが出品されています。

韓国のコ・スンウクは、現代アートシーンの最前線で活躍する美術家で、日本での大規模な展示は今回が初めてです。主な出品作は、拠点にしている故郷・済州島で第二次大戦後に起きた「済州島四・三事件」をテーマにした映像作品などです。

八戸市出身の豊島重之は、地元で精神科医として勤務する傍ら、劇団「モレキュラーシアター」を率いて演劇や美術、批評、写真など多彩な活躍を繰り広げた演出家です。「市民アートサポート ICANOF（イカノフ）」を結成、キュレーターとして活動を展開しましたが、2019 年に 72 歳で亡くなりました。今回の出展はモレキュラーシアターの舞台作品「直下型演劇」の舞台装置の写真やサウンドインスタレーションが中心です。

山城知佳子は沖縄県出身・在住の映像作家・美術家です。映像や写真、パフォーマンスを中心に、沖縄戦や基地問題を扱った作品を経て、近年は「言葉にならない記憶」を伝える試みなど、抽象的なイメージなどを取り入れた活動を展開しています。映像インスタレーションや新作の写真が展示されます。

チケットは一般 1,500 円、高校生・大学生 1,000 円、中学生以下は無料です。

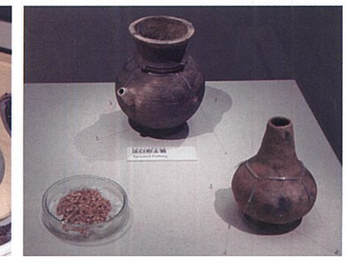
三内丸山遺跡 奥深い精神・美意識に迫る

特別展「あおもりの縄文世界」

三内丸山遺跡で特別展「あおもりの縄文世界」が 11 月 28 日まで開かれています。青森県内の遺跡から出土した代表的な土器や石器、木製品など、重要文化財 18 点、県重宝 36 点を含む 274 点を展示し、縄文人の精神世界や美意識に迫ります。

端麗な、あるいは迫力ある土器群に加えて、興味深いのは、当時の人々の暮らしと祈りを感じさせる出土品です。六ヶ所村の大石平遺跡などから見付かった後期の手形付土版・足形付土版＝写真上＝です。その名の通り、子どもの手足を押しつけた土製品で、成長の祈願、魔よけなどの用途が考えられています。

三内丸山遺跡から出土した前期の「編組製品」＝写真左下＝は、いわゆる「縄文ポシェット」がどのようなパーツで組み立てられているか分かります。



階上町の滝端遺跡と寺下遺跡の後期の土器からは、それぞれヘビの骨が見付かりました＝写真右下。特に寺下遺跡の土器（右）には 2 体分が収めてあり、「ひょっとしたらヘビ酒？」という見方もあります。

青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく㉖ 「おもてなしの宅配便」制作中

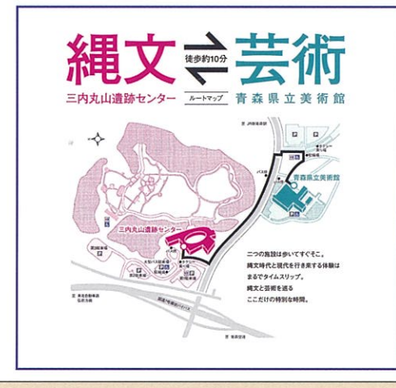
江戸時代末期の弘前ねぷたの絵には、今私たちが目にするものより少しだけリアリティのある金魚ねぶたが描かれています。金魚ねぶたは、弘前藩が産業として飼育した津軽地方の地金魚「津軽錦（つがるにしき）」（命名は昭和初期）を模したという説もあります。青森市出身の銅版画家今純三のスケッチによると、昭和初年には現在の金魚ねぶたの形がおおむね出来上がっていることがわかります。骨組みには竹材を用い、奉書紙を貼った小さな灯籠で、球体の胴体に三角形の大きな尾ひれと胸びれ・腹びれも付きます。戦後、骨組みは針金を使うのが一般的になり、フサというひれ飾りを金魚の両側に垂らすようになりました。かつては、子どもたちを喜ばせた愛らしい金魚ねぶたは、ねぶた祭には欠かせない定番のアイテムとなって、祭りの季節が近づくと街のあちらこちらに飾り付けられ、観光客のお土産としても活躍しています。

さて、わが青西おもてなし隊では、昨年ねぶたの浴衣生地で手作りしたマスクを交流のあった観光客の方々に送付する取り組みを行いましたが、今年はミニサイズの金魚ねぶたを手作りし、青森を思い出していただこうと考えました。諸事情で祭りの季節には間に合いませんでしたが、現在、写真のような胴体の直径が 8 ㎝のミニ版を製作中です。針金や竹ひごで骨組みを作るところから、慣れない作業で難しい工程もありますが、心を込めてがんばっています。目標数に届いたら、青森ねぶたの魅力をささやかながら実感していただくよう「おもてなしの宅配便」として送り届け、来年こそは青森ねぶた祭に足を運んでもらう契機になればと、青西のにわかねぶた師たちはミニ金魚ねぶたと格闘しています。　（青森西高校・清野耕司教諭）

三内丸山遺跡センター

見学時間　9:00～17:00（入場は閉館の30分前まで）
休 館 日　毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日～1月1日
観 覧 料　一般 410円（330円）／高校・大学生等 200円（160円）／中学生以下 無料
※（　）内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット呈示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

お問合せ
〒038-0031 青森市三内字丸山305
TEL.017-766-8282 ／ FAX.017-766-2365
URL https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp



青森県立美術館

開館時間　9:30～17:00（入場は16:30まで）
休 館 日　毎月第2、第4月曜日（祝日の場合は翌日）
※企画展開催時、展示替等により変更する場合あり。
観 覧 料　一般 510円（410円）／高校・大学生 300円（240円）／小学生・中学生100円（80円）
※（　）内は20名以上の団体料金
※企画展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット呈示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

お問合せ
〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 ／ FAX.017-783-5244
URL http://www.aomori-museum.jp

◆お断り　新型コロナウイルス感染症拡大に伴う青森県の「緊急対策パッケージ」により、三内丸山遺跡や青森県立美術館をはじめ県内のほとんどの公共施設が休館、青森西高校を含む学校の部活動が休止となったため、当ニュースレター「はっしん！ 新青森」は 9 月 10 日号を休刊としました。

Facebook ページ
Instagram アカウント

＜ネット情報＞
Facebook ページと Instagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ下さい。また、PDF 版を青森西高校ホームページ（http://www.aomorinishi-h.asn.ed.jp/）に掲載しています。いずれも、右側にの QR コードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・櫛引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943　青森市幸畑 2-3-1　青森大学社会学部
櫛引素夫　電話 017-738-2001 内線 731

縄文⇄芸術 FB ページ
Instagram
青森西高校ホームページ

©2021　MOTOO KUSHIBIKI
＜ご自由にお持ち帰り下さい＞
ポスター等は許諾を得て使用しています